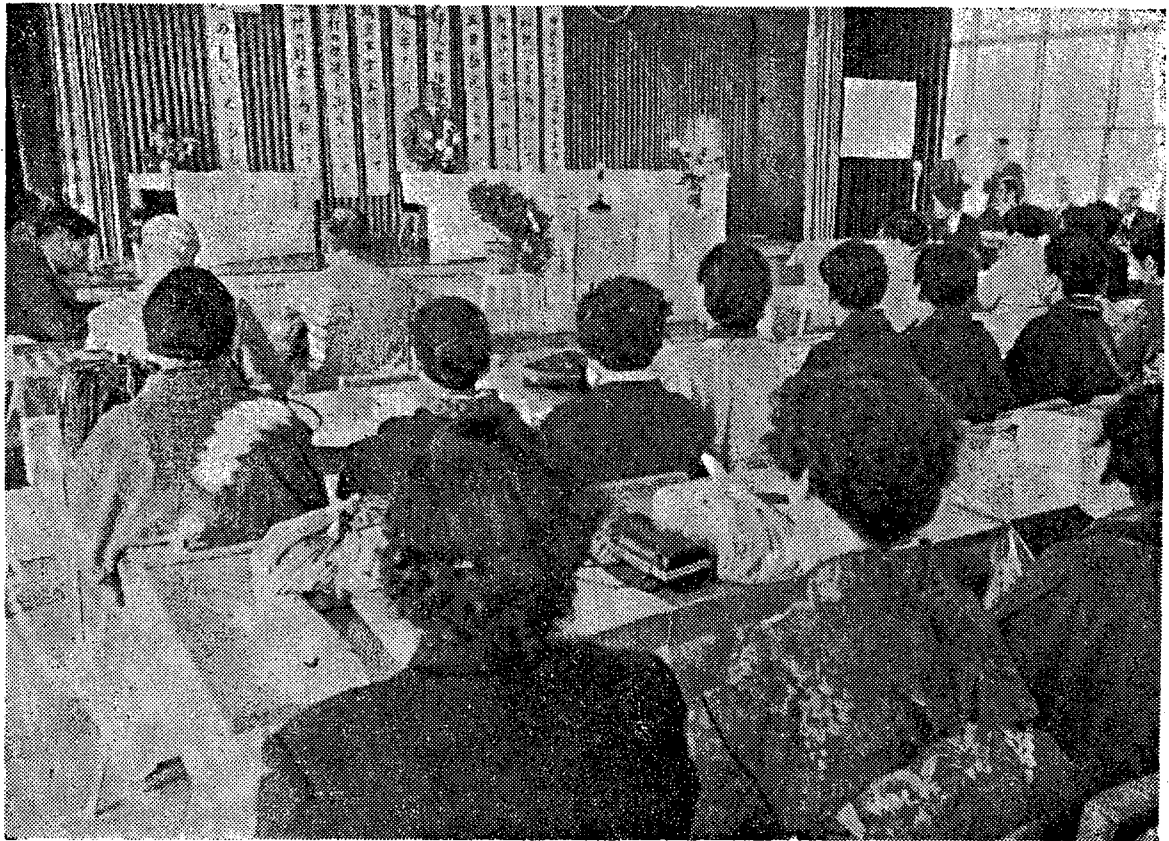


拓水

十一月

(第一回兵庫県下漁業協同組合婦人部大会特集号)



兵庫県漁業協同組合連合会

第一卷

第四号

昭和三十一年十一月十五日発行(月刊毎)

回十五日発行)

一部十円



(宣言の写真)

宣 言

私達漁業協同組合婦人部の組織も既に三十を数え、その事業活動も漸く活潑になりつつありますが、漁村の実情や、漁村における婦人の地位を考えますとき、私達婦人部の使命がどんなに大切なものであるかということを深く再認識するのであります。

私達はここに第一回兵庫県漁業協同組合婦人部大会が開催されるに当り一層組織の拡充強化をはかるとともに、相互の連絡を密にして、婦人部本来の目的である漁村婦人の文化向上と漁家経済の自立をはかることに精進することを宣言します。

昭和三十一年十月二十六日

第一回 兵庫県漁業協同組合婦人部大会

今日は此の明るい建物で皆様方の
 明るいお顔を拝見いたします事が出
 来まして大変嬉しく思つておりま
 す。私達協同組合、(農協漁協をと
 わず)の仲間が増えました事につ
 きまして力強い感じを受けるもので
 ございます。協同組合の協同の精神で
 貧乏退治をして明るい楽しい生活を
 している農村

のお話しをい
 たします。あ
 る一農村での
 事ですが、毎
 朝農家の主婦
 達が朝市に各
 自の家で採れ

ました野菜を売りに行きますが、
 やはり商売の事ですので商売の上手
 な人の荷は毎日のように早く売切れ
 ますが、商売下手な人はなかなか売
 切れず時には残すような事も有りま
 した。そこで皆寄つて相談致しまし
 た結果早く売つた人はまだの人の売
 るのを助けるとか、或は自分達の市
 場の廻りの清掃を行うとかの事を申

し合せ、皆揃つて帰ろうと云う事に
 なりました。その結果品物は毎日皆
 売切れますし、皆揃つて帰るので
 すから明るいあの楽しい仲間が出来、
 先年再び訪れました時には以前とは
 うつて變つた朗らかな人々に接する
 事が出来私自身が驚いた程です。こ
 れも協同の精神でたのしいくらしを

らぬからとかで一部の人達だけしか
 使用していない状況でした。而しそ
 の使用していません一部の人が一回流
 濯する如に十円づつを積立てる事を
 申し合せました。一回十円はまことに
 僅少な金額ですが今年に私が再び
 行きました時には立派な電気洗濯機
 をもう一台購入してありました。そ
 してまだまだ

たのしいくらし

離生活協同組合 永谷晴子

築いた例です。もう一つ此れも農村
 のお話しですが村の婦人会で電気洗
 濯機を一台買いました。何にしる一
 台ですし、持つて回るわけにも行き
 ませんので村の一方所に置いて其処
 へ洗濯に行く事にしました。近くの
 人は手軽に行けますが遠くの人には
 さわぎ洗濯物を持つてまで行けぬし
 とか、洗濯機で洗つてもきれいな

十分に活用出来るようにするんだと
 張切つて申しておられました。この
 ように僅かな事でも協同の精神で皆
 様が一致協力して行われますときは
 大きな力になります。最初に申し上
 げました如く皆様方が協力一致して
 貧乏を退治し、明るい楽しいくらし
 へと歩一歩一歩前進されますように
 とお願いいたしております。

目次

たのしいくらし	永谷晴子	1
健康保険と厚生年金について	増本正治	2
婦人部結成の主旨と 信用事業実績について	沼島漁協組婦人部	3
第一回県下漁協組婦人部大会 船祝の元費節約について	浜坂漁協組婦人部	4
新漁村の建設は私達の手で	東須磨漁協組婦人部	5
五日勘定と自賄	炬口漁協組婦人部	6
婦人部結成後の実績	柴山港漁協組婦人部	7
婦人部十カ月の足跡について	高砂漁協組婦人部	8
漁村の保健と衛生について	駒ヶ林浦漁協組婦人部	9
漁村の副業と内職	仮屋漁協組婦人部	10
けたらく人へのあいさつ	松井毅	11

健康保険と厚生年金について

林崎漁業協同組合

理事 増本正治

健保設立の由来

私達の林崎漁業協同組合では全国の漁協組に卒先して、健康保険制度を実施するとともに診療所を開設して漁業者やその家族たちの保健のために非常に役立つて喜ばれております。そして更に昨年十二月末に老人の(男女とも)ために厚生年金制度を実施したいと思ひ原案をつくり組合員に提示して目下研究中であります。これが来る昭和三十三年二月の総会で議案として提出され満場一致で可決を見、三十二年度から実施の運びになると信じております。

封建的思想の強い漁村に相互援助のこの保険制度、診療所と林崎漁協組が他にさきかけて全国最初に何故つくつたかと言いますと、それは林崎が戦禍によつて八割以上の家屋が焼失し、その復興途上いろいろの病気に罹るものが続出し医療費に苦しむ者、また家族の不幸を嘆ずる者が多数ありました。何とか救助の方法はないものかと痛切に叫ばれていたのです。が、何れの漁村にも共通した経済力の貧困、しかも世事に疎く、また漁協組それ

の賛成を得て、今日の組合が生れたのであります。

健保の実状

保険組合の発足に當つて次のように漁業組合の特殊性を活かして計画を樹てました。

一、組合員並に被保険者数

組合員 四七〇名

被保険者従業員 七二〇名

其の他家族 九六〇名

計 二一五〇名

一、保険料等級(等級を附せず)

組合一部手数料充当額 一二〇万円

組合員従業員及家族は十円保険料

二四万千八百円

其の他国庫補助、県費補助等収入あり。

一、療養の給付方法及一部負担

(イ)種別 県内「明石市」

医師、歯科医師

薬剤師

備考 診療所専任者の外市内開業医に依頼診療治療及び投薬をなす。

(ロ)一部負担金の割合

組合員にありては給付費の一割、従業員三割その他家族は五割を徴収する。(現在では組合員、従業員二割五分)

一、助産の給付は行わない。

助産の給付に代えて助産費(一〇〇〇円)を支給する。

一、葬祭の給付は行わない。

葬祭の給付に代えて

葬祭費(二〇〇〇円)を支給する。

一、保育の給付は行わない。

保育の給付に代えて

(六ヵ月間一ヵ月一五〇円 計九〇〇円)保育費を支給する

一、漁撈事故者に見舞金を給付す

(イ)死亡者 組合員五万円

〃 従業員三万円

(ロ)不具者 組合員二万円

〃 従業員一万円

一、保健施設

健康診断、予防接種、寄生虫駆除の施行、保健衛生思想の涵養宣伝、保健婦による保健指導など努める予定である。

一、その他

保健組合の基根となる保健料は社会保険と異なる国民保健組合では円滑に徴収が困難と聞きましたのでこれに苦心を払い現在漁協組合の漁獲の共同販売所の手数料六分の内一分と漁協組の諸経費を節約したものとで運営する決意を役員会で決め一般組合員及びその家族から月十円の保険料を徴収して発足し、今日では月額十円の保険料を二十円に増額しております。

医療費の負担でも一般に行われている国民健康保険組合では五割の負担というところで当組合では組合員や従業員には二割五分負担です。また組合員や従業員

が漁撈中、風水害及び漁船の引降し引揚げ作業など不慮の災難により死亡したり或は不具者となつたときは見舞金を贈ることも関係当局の承認を得て定款に入れたことは前記の通りでありましてこのよるな結果を見、組合員に喜ばれなお組合員同様の保険料(月額二十円の掛金)で地元の生魚仲買人及び水産加工業者も保健組合員に加入しその業務の発展を見たいです。更に同一市内で当組合と隣接の江井ヶ島漁協組合からも申込みがありましてので保険組合に加入してあります。

現在組合員は五百十三名その家族や従業員二千二百七十七名計二千七百三十名が保険を利用、保険組合や直営の診療所の開設で(普通診療所は一点十円単価ですが、直営診療所では一点十円単価で診療してあります)我々漁村は衛生面に大きな進歩を見せております。

厚生年金制度の案

健康保険制度の確立に伴い厚生年金制度の実施の声が年老いた漁民から強く要望されて来ました。即ち「我々漁師は四十年五十年と一生懸命に働いてきたが、これとて人間には限度があり六十、七十の老人となつては沖での稼業が重労働となり働けない、そうなつても我々漁師には退職金も恩給もないのみか貯蓄もない息子や嫁に小遣金の請求も気がねで余生の楽しみが薄いなんとかいい方法を組合で考えてくれないか」という声があり私

自身もそれをなんとか実現したいと思つてた矢先でもあり組合員からも組合出資金の増額や貯金その他組合の諸事業にさらに協力を惜しまないからと云う厚生年金制度の設立に切実な声がありますので、私はこの要望を早急に実現したく厚生年金制度について次のような私案を制度案の骨子にしたいと考えているのであります。それは県下各地の漁業協同組合では各々実情が違いますので実情に沿つてやるべきだと思ひます。先づ私の方の組合では組合が経費を節約して二十万円、診療所益金二十五万、組合員から五十五万円計金百万円を毎年積立てこれを正月、春祭、お盆、秋祭の年四回に分割して給付額は男子年五千元、女子三千元とし給付の対照となる年齢は満六十才以上の男女で漁業に満三十年以上勤続従事した者(女とあるは漁業者の妻であり又その未亡人である)当組合での対照人員は男子百三名女子百五名計二百八名であります。但し年金支給を受けるものは組合費保険費組合の購買代金貸付金諸税金(組合に納税組合の組織がある)等の返済完納の出来た者でなければならぬ。尤も役員会で認められた者はこの限りでないと言ふ制限条件を付して進めないと以上の様な構想を練つて居ります。それに先般来から盛上る力によつて婦人部が結成されてこれまた一日十円貯金を完行するとともに漁協組合に側面的に協力しており、また婦人自体の生活改善等により家計を

節約した結晶などがやがてこの私の考える厚生年金制度を実現してくる一つのバロメーターになつてくれるものと確信しております。

現在組合員は昭和三十一年六月から増資目標を一万円において出資の予約貯金を三カ年計画で実行しているところであります。以上が保険組合が出来た経過や厚

婦人部結成の主旨と

信用事業実績について

沼島漁協組婦人部

生年金制度についての考え方であります。御参考になれば幸甚です。

第一回県下漁協組婦人部大会に於て駒ヶ林浦漁協組婦人部より漁業者の保険制度についての提案事項が有りましたが、林崎漁協の此の記事は大いに参考になる事と存じます。(係)

私達沼島漁協組婦人部は昨年四月一日に二〇八名の部員数を以て結成しました。結成当時第一に一日十円貯金の奨励をしましたが、出来ると云う人はほんのわずかでしたのに一カ月後の五月一日に貯金を開始しました処、部員の半数以上の二九名の予金者が出来ました。それはよその家も貯金しているから私の所も十円づつ貯金しておこうとか、私の所には借金があつて苦しいけれど端数金を預金して行こうと云う様になつて二人増え三人増えしまして、卅一年九月末で一八七名になり貯金開始当時より五八名増えております。予金額は月平均十万円出来ていますが、これを引出しせずにつつと予けておけば沢山の金額になります。やはりお正月とかお盆やお祭には多額の

引出しがあるので余り沢山出来ておりますが、卅一年九月末で予金総額は五十九万九千六百五十六円になつており、定期予金も卅一年五月より九月までで九万七千円出来ております。これだけ位の予金をいたしますにも不漁続きの折柄一本釣を頼りにする主婦達にとりましては大変な苦勞であります。而し男の人が朝早く三時頃より夕方四時半、五時半頃までも長時間海上で働いてくれる事を思ひましたとき、家の内で女の人もうっかりと過してはおられませんか。沼島は昔から悪い習慣がありまして、一寸けつまつてお金の必要があります時には頼母子講をして、親は親掛をもらつて後始末も充分せず、又子は子で自分が入用の時に落して用い後を掛けられぬ様になり皆に迷惑を

第一回県下漁協組婦人部大会

十月廿六日秋晴れの清々しい日県立水産会館に於て第一回県下漁業協同組合婦人部大会が行われた。九時半頃より来会者が続々とつめかけ定刻十時には予定人員を約八十名も上回る二七〇名の大盛会となつた。各婦人部で取り上げられている時間助行の趣旨通り定刻十時丁度水産課長の開会の辞に始まり、主催者県漁連三浦会長の挨拶、知事（中村農林部長代読）の祝辞、森沢水産課長の現在までの経過報告があり議長選任に入つた。何にしろ第一回の事で顔見知りもほとんどないので、誰れを議長に推して良いのやら来会者の

かける事も度々ありました。而し今は頼母子講もずつと減りましたし、予金は自分のもので予けておけば何時でも引出しが出来るので貯金々々とチヨキチヨキ増

方々にも見当がつかぬ様子だつたので、主催者側に一任してもらふ事になり、主催者側で協議の結果淡路海区漁協組婦人部連合会長の魚井さん（江井漁協組婦人部長）にして戴く事になり議事に入つた。沼島、浜坂、東須磨、炬口、香住町、柴山港、高砂、駒ヶ林、仮屋、の順に発表を行い次いで宣言案を総員に計り可決を見、山本講師、永谷講師の分り易い有益なお話しをお伺いし、宣言決議文の朗読を行い午後二時三浦県漁連会長の閉会の辞で全行事を終了した。

えて参つております。今後ともなお一層の努力をつづけて行きたいと思つております。

船祝の冗費節約について

一 浜坂漁協組婦人部

私達の婦人部は昭和廿九年二月に結成し会員一〇七名で貯蓄、文化、経済、衛生、購買の五つの部門を設け各部門毎にその責任者を置き活動を進めて来て居ります。今日は生活改善の一端として経済

部がとり上げました船祝の冗費節約につきまして発表致します。最近非常に沿岸漁業が不振になり私達漁村の生活環境は疲弊のどん底に追いこまれて居ります。これは私が今更申上げるまでもありません。

んが、こう云つた生活の苦しい原因はただ魚がとれないから苦しいのだと云うばかりでなく、無計画な日常の消費生活にも起因しているという事は否定出来ない事でありませう。そこで私達漁協組婦人部では日常生活に於いて冗費されているものはなんであるかと云う事を検討しまして、漁村だけでとり決めの出来る手近な問題として船祝の経費節約と云う事を申合せました。

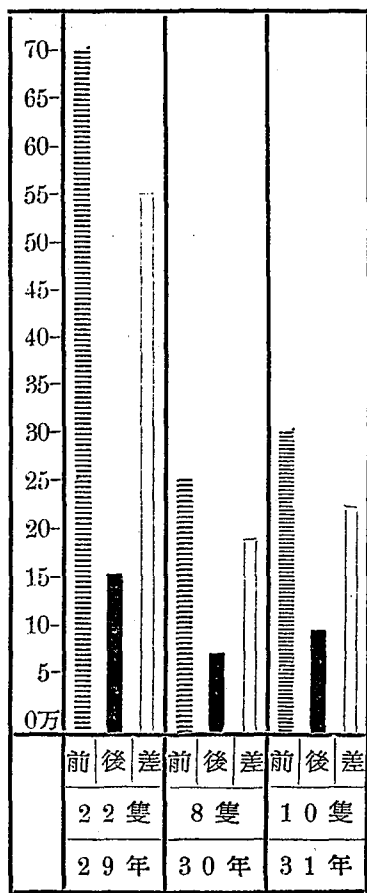
従来この船祝に費やしている経費は大體一隻について三万円程度で、此の主なものは酒代でしかもその酒は飲み放題といつたややかただつたのです。従つて来客も相当あり何等制限がないために年々はでになる一方で、借金をして船を造つたものの上にもまた借金と云つた様な状態だつたのであります。一方お祝いに行く方にしましても不経済な行事だつたのです。

このように両者共に不経済な行事を因習にとらわれながら続けて来たのです。そこで婦人部の結成と同時にこの問題を

とり上げ戸主の方達の賛同と力強い青年の協力を求め簡素化を図つたのであります。取決め事項を申し上げますと、一隻の船に對しまして組合から日ノ丸の旗一本祝つて頂き、なお一番身近な親戚の家から船旗を二本祝つて頂く事に決めました。酒は進水式の時に二升と決め内祝の時には極く身近な親戚の方達のみヒラボンでオミキを頂くと云つた様にしました。この取決めによりまして廿九年、三

十年、卅一年の節減高を圖に表わしてみますと、廿九年度におきましては廿二隻の造船を行つておりますから、従来ですと七十万円位経費を要するものが十五万円程度で済み約五十五万円の経費が節減されております。卅年度に於きましても八隻の船で約十八万円、卅一年の現在までに十隻の造船があり、これも約二十三万円程度の節約が出来て居ります。一方お祝を持つて行く方に致しましては個人々々に於ける出費は少ないのであります。漁村全体としてまとまつたものは大きいものになります。

船祝冗費節約高対比圖



この様にして節減出来ましたお金は直接目には見えませんが個々それぞれの立場に於きまして貯金の方へ廻すとか、子供の教育費に当てるとか云つた様により有効的に使用されております事は確かであります。

この様にわづかな取決めではありませんが、苦しい漁村の経済更生への一ツの芽生えとして実施出来ました事を今更ながら会員と共に喜んで居ります。此の取決めを致します時に於きましても色々反対もされ非難もあつたのでありますが、婦人部と云う結束されました大きな力を以て当れば、一人一人で出来得ない問題でもとり上げていただく事が出来る云う自信をもつたのであります。その外婦人部の活動としましては貯蓄事業はもとより物品の共同購入も行つて居ります。この共同購入事業にしましては婦人

部で販売する品物の価格は市中の販売価格より安く供給して居りますので、会員はそれだけ利益を受けている事になります。販売価格には少しづつの利潤を見積つて居りますので、廿九年度では一万円余り販売利益がありました。この利益は婦人部の活動資金としてより有効的に使用しているのであります。私達婦人部がここまで成長しましたのも県水産課、県漁連、浜坂漁協の物心両面による力強い援助と青少年クラブとよく連繋を保つて協力を得たと云う事が大きな原因となつて居ります。

今後におきましても組合を中心に戸主の方や青年の方達とよく相談して見栄を張つた冗費を節約し、少しでもお互の生活が合理的に運ばれ明朗な住みよい漁村の建設が出来ます様努力して行きたいと思つて居ります。

新漁村の建設は私達の手で

— 東須磨漁協組婦人部 —

私達の漁村は神戸市に於て唯一つの戦災漁村でありまして、思えばあのおそろしい悪夢の様な戦争末期の神戸大空襲の犠牲となり、一瞬にして家財道具も命の繩と頼む漁船漁具に至る迄灰塵と化してしまいました。それより後私達漁村の生活は言語に絶する苦しみと闘つて参つた

のであります。戦後十余年間私達漁村の人達は組合長指導の下に、一意再建を相言葉と致しまして今日迄励んで参つたのであります。何分にも経済力の貧弱な私達漁村の事として何事も思う様には参りません。日夜荒波と闘いつつ骨身をおしまず働いて下さる男の人達の姿を見てた

だ感謝するだけでなく、何とか自分達女性で出来る事を積極的に行い一日も早く漁村の再建をと念願致し、昭和二十九年五月五日の子供の日を記念致しまして有志の方々が集り、組合の絶大なる支援を得てここに東須磨水産婦人会の結成を見ただのであります。其後一昨年須磨漁業協同組合婦人部と改められ今日に至りましたが、その間婦人部としまして一日拾円貯金の励行、日用品の購買事業を行い漁家経済の改善に力を入れ、亦環境衛生健康の保持部員の地位の向上、子弟の教育等私達婦人で出来る事は進んで行つてきました。今日では一応成績も向上して非常に良い結果を得る事が出来、私達漁村も次第に明るくなり、夜明の黎明が近づいた想いがします。次に前述しました各事業の中で環境衛生についてお話し致します。私達婦人部結成以来環境衛生に留意しまして何とか住み良い明るい漁村をつくる事を考え、部員の方々と相談しました結果、毎週二回漁村周辺の清掃を行い、亦、海岸、船場、網修理場等の清掃を実施し、時にはDDT等の薬品の撒布を行い「はい」「か」等を少くするため、各家庭及び共同便所の清掃又手洗水の補充取換、クレゾール液を使用する等、各班に交り実施させ、時々幹部が見廻りその結果を確める様にして不備な点があれば直ちに注意をして頂く様にして参りました。又時には悪疫伝染病等のおそれのある時には、組合の委託医野村病院で漁

村民全部の予防注射を行い病気を防ぐ様処置をしておりますが、万一病人が出た場合直ちに組合に申し出て早期診断を受け、病を早く療す様にしております。私達の組合には健康保険に似た様な保険制度があり、全額組合負担でありますので非常に便利が良く、誰でも早期診断を受けて居ります。その結果現在漁村も非常に清潔となり、漁場特有の「はい」等減少し、病人もあまりでず毎日明るい気持で漁業に励んでおります。斯うした結果を得ました事は組合の努力や婦人部員一致協力の賜物と思ひます。私達婦人部として今後もなさねばならぬ事が沢山あります。自の地位の向上、子弟の教育、家庭経済の改善等、家庭の妻として母として、亦漁村の母としての仕事は何時迄もつきないものと思ひます。斯様に考えて見ます時、私達婦人の責任も重大であり、一時も安閑として居る時ではないと思ひます。本日幸にして関係皆様の御配慮に依り婦人部大会を開催しましたこの記念すべき日に、今一歩進めて県下漁村婦人部連合会の結成を計り、県下漁村の女性が一丸と成り共に相助け、相導き、以つて新漁村建設に邁進しようではありませんか。



五日勘定と自賄

― 炬口漁協組婦人部 ―

私共の漁村炬口は漁家戸数一三〇戸で、その大半は低い生産力に依存しており漁家一戸あたりの漁業による収入は、約一カ月平均八〇〇〇円から一二〇〇〇円程度でこの内大部分の漁家は八〇〇〇円程度と推定されています。しかもこれで次期生産の資金と生産費を賄つてゆかねばなりませんので、其の生活は決して豊かではありません。加えて内海漁業は常にその漁獲が自然条件に左右され、最近に於ては年々漁場が荒廃し不漁連続のみじめな現状であります。

かかる不安定な中に甘んじて生活している私共の家庭では、定まつた計画のもとに生活する事が非常に困難でありまして、これが私共の貧困の大きな原因をなしているものと考えられます。この様な中にあつて私達炬口の婦人は毎日朝早くから夜遅くまで額に汗して身を粉にして働き、家計を支えているのであります。最近の調査によりますと部員一二〇名の中、真珠貝卸女工三〇名、魚行商人二七名、水産加工業及手伝一六名、鐘紡女工九名、事務員五名、ミシン縫物仕事三名、子守二名、無職二八名で無職の方でも子育てのかたわらボタン付をしたり、延

繩くり、網縫い、餌さし等の漁業の手伝をしており方が大部分で、誰もが何かして働いておられます。この様に働くことの出来たのも洲本市の市街地に隣接している関係上、副業とか内職に恵まれているお蔭であると思ひます。

私達婦人部は昨年六月県水産課よりモデル地区の指定を受けましたのを動機として、昨年七月三日一〇三名の部員を以つてうぶ声をあげ、現在では部員一二〇名に増加しております。そして一日十円貯金を励行することを中心に県水産課及び市の公民館等の御指導により、生活物資の共同購入及び衛生講話、婦人学級、其の他生活改善に関する各種講習講話会を行事計画に基づき実施しております。又特に組合よりミシン一台を購入していただき、組合の会議室に備え付け洋裁の講習、実習のため部員が自由に利用できる様にしてありますが、私共の方では家庭に於けるミシンの普及率が低いので、非常に部員に喜ばれて居ります。この様に生活改善に関する知識と貴重な体験を重ね、これによつて私共は日々の明け暮れをただ無意識に過ぎていた過去にくらべ、献立一つにしても酸性食物、アルカ

リ性食物のバランスを考え、栄養を破壊しない料理の仕方などを知る喜びにひたつております。私達の実施している十円貯金にしても僅かな金額ではありますが、雨の日も風の日も隣保毎に輪番制で集められて来ますが、これは婦人部全体に血液が循環している様で私共の団結の象徴とも言えます。

婦人部結成以来、私達の生活が単に衛生とか経済上の利益のみに止まらず、協同一致の精神や、公德心を養い生活を合理的に考える知識と創意工夫により、自分の生活が改善され進歩しつつあることを感ずる喜び、そしてこの喜びから新しい生活を切り拓く勇氣と推進力が培われて行く事が出来ると思ひます。

婦人部結成当初、県水産課より巡回指導があり予算生活についての御指導を仰ぎ、又信漁連より巡回指導もありましてその際見せていただきました「自賄」と云う幻灯写真に、私達は深、胸を打たれました。「私達漁家を救う道はこれだ!!」今日まで培われてきた部員の自覚と団結によつてこの「自賄」を実現し、困窮している経済をたて直さなければならぬと考えたのであります。そこで先づ役員会に諮り決意をかため、日頃より「五日勘定」を提唱しておられた組合長に御相談し予算生活、計画生活の基となります収入即ち、水揚代金の勘定を「五日勘定」にしていただき自賄実現に邁進することになつたのであります。そして婦人

部総会の席上に於て「五日勘定の必要性と婦人部の協力について」組合長よりお話を願ひ、早速本年四月三十日よりその第一歩をふみ出したのであります。はじめのうちには二、三人が「餌を買う金がないから出してくれ」とか、「自分で働いて得た金だから何時でも貰えるのが当然だ」とか言つては組合を押し付けてくる人があり、一時は難航を極めましたが一応成功しているのです。しかし最近でも沖がしけた日に「今日は漁もなし、酒でも飲もうと思ふのだが金を出してくれ」と言う様な人が時々あります。組合長に説得されてその都度帰つて行きます。以上の様な経過をたどりまして次の様な事の体験をしました。

- 1、五日勘定によりまして、少しでも生活に計画性が保たれ、家計簿記入も容易となり行きあたりばつたりの生活を根本的に改善でき得る。
 - 2、五日勘定実施によりまして、水揚金額がまとまるので端数貯金とか、漁船建造資金等の天引貯金が出来「自賄」が可能となります。
 - 3、漁協の経理事務の手續が省け正確に能率が倍加されます。
- 以上の様な利点があり、この「五日勘定」を堅持し基礎を固め自賄の出来得る健全な漁家経済を確立し、更に将来は「十日勘定」「十五日勘定」へと発展させてゆきたい夢もいだいて居ります。そして内海業の衰微に備え、災害があつて

も不漁が続いてもびくともしない漁村、
明るい炬口を築きあげねばならないと思

います。

婦人部結成後の実績

―香住町漁協組婦人部―

私達の婦人部は昨年の八月十九日に結成されたのですが、貯蓄につきましては既に婦人部が結成されます以前の二十九年に漁協組からの申し出もあり初めて婦人部としての組織立つた貯蓄運動に入つたのであります。勿論私達婦人としてしましてもいままでもから漁協組の貯蓄事業につきまして無関心であつた訳ではありませんが、漁家の主婦として少なからぬ努力を続けて来ましたが、個人個人の努力と、まちなちな考え方だけではどうしても漁協組の考えておられます様な姿のまとまつた系統貯蓄の成績は揚りませんでした。そこで色々相談しました結果手初めに零細貯金の吸収を考え先程申し述べました如く二十九年より各家庭に小型の貯金箱を漁協組の方より配布して頂き、一日十円貯金を始めました。これを家庭貯金と名付けておりますが、この貯金の集金は毎月一回組合員の方に頂いておきます。九月末現在二百五万円になつております。次に昨年八月に婦人部が結成されましたので、結成されますと同時に物資の共同購入、貯蓄運動など婦

人部事業としてとり入れ特に貯蓄運動につきましては、事業の主体として新しく月掛貯金を部員四三〇名の全員がもれなく実行致します事を申し合せ、一カ月一回まことに零細な五〇円〜二〇〇円位の金額ではあります貯蓄の増強に努めております。九月末におきましてこの月掛金額は九〇万円になつております。家庭貯金、月掛貯金に致しまして部員一人一人に割つてみますとわずかですが、これが多勢のまとまつた貯金としてやがては大きな力を發揮してくる事を固く信じますと共に、何よりの楽しみとしてこの貯蓄運動がいつ迄も永く続きますことを念願しながら次のような方法で月掛貯金を行つております。一番大切なことは全部の部員の方達が一月も欠かさず必ず貯金をしてもらえような仕組にしなければならぬ事にあると思ひます。その為には一回の預け入れ高は幾らでも構わない事、貯金の払戻しは本人の自由である事、幾ら都合の悪い時でも一カ月一〇円年一二回は必ず貯金する事等を実行し貯蓄觀念の昂揚と習性を身に付けるように

し、昔からよくいわれております「漁師はその場限りでもうけただけは使つてしまふ」という悪い風習を漁民家庭の一軒々々から追放して行くように持つて行つております。又毎月の集金の方法としては、一〇名位を単位として編まれております各組毎にその組の部員の輪番制によつて集金しております。この二つの貯金の他に、外部より入港した船の水揚げ作業を婦人部の事業として行つておりますが、その作業賃金の半分を貯蓄するよう今年八月二十八日に開かれました通常総会で決議し九月一日から実行しております。今迄申しました三つの婦人部の貯金の合計が九月末で三〇〇万円になつております。このお金を漁協組合が私達漁民の生活の源であるお魚を一尾でも多く獲る為や、少しでも高く売り捌く事が出来るように、又私達の港が少しでも良

くなる為等の種々の事に使つておられる事を考えます時、今までよりも一層漁協組合と私達婦人部が親密な間柄になつたような、今迄に味わつたことのないような気持が致します。と同時に今迄よく漁協組合の方から聞かされておりました系統利用がなぜ大切であり、有利であるかという事が理解出来ましたし、漁協組合がなんの目的で貯蓄の増強を叫ばれたり種々の事業をされるのかという事は今迄おぼろげにしか感じませんでした。婦人部結成により私達の漁協組合が作られております本當の目的が、遅ればせながら充分理解出来、心の底から納得できました事も大きな欲びでありますと共に亦大きな収穫でありました。今後益々貯蓄運動に一層の努力を致し、より明るい、より平和な漁村の建設に尽したいと思つております。

婦人部十カ月の足跡について

―柴山港漁協組婦人部―

昨年の夏頃から漁協組合の方から漁協組婦人部を結成する様お話しがありました。柴山港岸には従来から柴山婦人会という組織がありいわゆる系統婦人会の役割を果しつつ、漁村にふさわしい諸事業を比較的活潑に行つて参りました。そこでわざわざ新しい婦人部の組織を別に

持つても会員は皆同じ人であるから却つて專業上競合つたりすれば無用の混乱が起きてはと漁協の方とも色々相談しまして、従来の柴山婦人会をそのまま漁協組婦人部に持つてゆき、柴山婦人会即柴山漁協組婦人部即婦人会という關係を保持することを原則とし、婦人会の役員はそ

のまま婦人部の役員をして戴き、総会その他の諸行事には漁協組の意見を充分採り入れ、漁村としての特色をも存分に發揮するという建前を採用致しました。そして色々準備を整え本年六月二十六日創立総会を開きました。総会で決定しました初年度の事業計画は貯蓄増強、生活改善、教養向上の三項目で第一の貯蓄増強は従来から組合が行っておりましたオツリ貯金の側面協力、婦人部結成記念貯金の開始、在来の婦人会員としての貯金を漁協組預け替であります。婦人部結成記念貯金の開始に当つては、漁協組の方から貯金は決して無理をするな無理をした貯金は必ず長続きしないから、細く長く続く様と呉々も御注意がありましたので派手な見掛の大きな事をしないで一人が一カ月五〇円でも各々が無理ならぬ様一定額を継続して行くことにしました。たまたま本年はイワシ巾着網が一統柴山港を根拠に出入する事になりましたので組合の斡旋で巾着船の魚揚を請負うことになり、婦人部員が組を組織して輪番にこれに当りその賞金を一切先程の記念貯金に加えて参りました。九月末現在の記念貯金は僅か三一一、七六二円に過ぎませんが、この額は今までになかつたもの即ち婦人部の誕生により始めて目に見えるものであります。私達は金額は僅かでもこれが柴山の産業を發展させる潜在資本の土台となつてゐる事に大きな誇りと喜びを感じております。第二番目の

生活改善は色々計画や構想が採り上げられました。例えば冠婚葬祭の簡素化等は最も手近な問題ですが、これはなかなか勇気を要する仕事であり、昔から何回となく繰返えされた問題で過去の歴史は大い失敗に終つてゐます。要するに問題があまり大きすぎて、単に婦人部だけでは力の限界があるからだと考え、私達は最初から大きな問題に取組んで失敗を招くことを避け誰れもが実行するのに金はかからず、而も実行して直ちに効果のある時間励行一本槍でやつてみる事にしました。これは早速良い結果が現われしました。漁協組合の役員会では婦人部のこの運動に呼応して役員の出席時間の記録を開始され、このため通常一時間位延刻していた役員会がこの頃では三十分以内に短縮される様になつたという事です。第三の教養の向上は幸い漁協組合に神戸アメリカ文化センターの分館が設けられ、図書、雑誌並びに映写機が常設されておりますのでこれを活用する事にいたしました。而し正直に申しまして図書雑誌は少し程度も高く固い所がありますので、漁協組合の方からやかましくいわれませんがあまり利用いたしておりません。その代り映画の方は十分過ぎる程活用し、フィルム交換が待ちきれない程です。漁協組合では今まで新しいフィルムが来る毎に各部落一回ずつ巡回して戴いていましたが、それを特に二回にしていただき一回は婦人部員専用に見賞することにし

ております。又漁協組合事務所で婦人部役員会を開催するときは必ず新着のフィルムを見せてもらうことにしております。本年三月六日柴山婦人部の総会を開きましたとき、この総会に婦人部の行事として婦人も目まぐるしく交転する国際状勢を認識しておく必要があるからと、漁協組合の特別の御好意によりワザワザ朝日新聞本社から専門の外交記者を招いて、国際政局と我々の日常生活の関連がどのようになつてゐるかを平易に解説していただきました。こういう事は漁協婦人部なればこそ出来る行事であり漁協組合の力強い支援のもとに婦人部活動が行

高砂漁協婦人部の現況

—高砂漁協組婦人部—

昨年四月県の御推奨によりまして私の組合にも婦人部が結成されました。先ず第一に着手したのは、県信漁運の十円貯金箱で日掛貯金をする事でありました。今まで貯金というと余り良い顔をしてくれなかつたらうらみもありましたが、部員の皆様が主旨をよく理解して下さいまして一人で三口も入る方があり、会員百名で月々四万円以上の貯金が集り、現在では総額六十万円に達する様になりました。集め方は各町の責任者を決めて、この方が毎月月末に会員の家をまわつて

われるといふことは、何にもたとえようのない強味であります。以上婦人部発足以来僅か十カ月の足跡をごく簡単に申し述べました。まことに貧弱な内容であります。これが正味のプラスであつたことに思ひを致します時、私達は本当に漁協婦人部を結成してよかつたとしみじみ思います。漁協組合が常々注意されております通り急がず焦らずたどえ僅かでも確実な歩みをいついつまでも続けて行くといふ事をモットーとして今後も最善の努力をして行く決心であります。

集金し、これを組合の支切りを取りに行く時に一括して組合へ預金する事にしており、一人々々の預金通帳に記入して返す方法にしております。これを中心に毎月定例会を開いて、生活向上のあり方を会員で考えて行く事にしました。会は生活と切り離しては考えられず、従来の婦人会と同じでは意味がありません。そこで私達の生活は常に経済と結びつけて活動する事が肝心ですから、私達は家庭で一番消費する日用品を少しでも安く共同購入する事により、生活の合理化をはか

る事になりました。取扱品目は五十種以上に及んでおり、石鹼等は市内に製造工場がありますので、組合から交渉して貰いましてかなり有利に仕入れる事が出来ます。漁業者は沖の作業で汚れ物が多く、これに要する石鹼の消費量は馬鹿にならず、非常に有難く思っています。この七月には品目を繊維品にまで拡張し、大阪方面の間屋筋まで買入れに行く事もしました。その他醬油、木炭等も相当な売上げがあり、交つた所ではオコゼにされた時の特効薬、BHC液剤等も季節によりかなり出る様になりました。又今迄、朝市に他の店で漁業者が買つていたパンを婦人部で扱う事にしましたが、この方の売上げは上々で三カ月の間の利益が六千円になり、主として部の経費はこれを当てている現状です。これらの取扱いは部員の中約三十名の人が二人ずつ組になり、組合の支切りの多い日の午後二時から四時までの間一週間、約三日を交替で当番に出てしております。販売所は組合の倉庫の一部を借りており、支切り

を取りに来た序に気軽に立寄れる仕組になつております。仕入れは私が在庫の模様を見て注文先へ連絡し、売上げは婦人部の通帳に預入れ、仕入れの支払いはこの中からその都度引出す様にしていきます。

又本年七月から毎月一回市の教育委員会の御好意で定例会の後、教育映画で知識の向上を計つており、環境衛生の問題等も映画によつて教えられる事が多く、なかなか好評です。以上が活動の概況ですが、とりわけ御世話する立場にある方々は草分時代で色々つらい立場にたたされる事もありましたが、昨年難生活協同組合を見学させて頂き貴重な御話を伺つて以来、これはどんなことがあつても協同の力で立派なものに近づけなければならぬと思ひ色々な方々の御支援が実を結んで一応軌道に乗る所まで漕ぎつける事が出来ました。この運動は地道であります。私達の生活を合理化するため更に充実させ共々に暮しやすしい漁村にするべく努力して行くつもりです。

意義深く感じます。この良き機会に日頃考えております一端を申し述べます。日常生活の上で最も必要な事でありながら、案外に無関心で過されているのが保健衛生の問題です。自分一人の健康ばかりでなく、家人の健康についても充分注意しなければならぬ立場にある私達婦人が、保健衛生に対しては余りにも無関心に過している様に思っています。予防と云う様な面への気持も極めて少なく、病氣に罹つてからおろおろとしなければならぬ事も今迄再々経験して来た事です。この様に考えますと、漁村の保健衛生については他の会社員とか農村と違つて、特別の考慮が必要の様に思います。と云いますのは、現在漁業者の生活の実態を見ますと、先ず労働時間についてはサラリーマン、つまり会社員であれば八時間が普通とされております。ところが漁業者では風の出漁ですと夜明前、夏なれば三時、四時に出て、帰りは夕方六時頃になるとしても、非常な長時間労働です。この点は皆様もよく御経験の事と思ひます。最も風ばかりでなく、殆んど夜の所もありますが、これとても同じ事で大変に不規則な生活です。

漁村の保険と衛生について

一 駒ヶ林浦漁協組婦人部

此の度両陛下をお迎えして全国体育の祭典を神戸市を中心として兵庫県下に繰り広げられんとし、又神戸市民の繁栄を祝

福する「みなと祭」と重なる佳き日に当り、私達兵庫県漁村婦人大会がこの水産の殿堂に於て開催されましたことは一入

より大となり、思わぬ事故が増えて来ております。例えばローラーに手絡ませて指を落したり、腕を折つたり、足を絡ませて片足を切つたり等々の事を身近に見聞き、其の都度身につまされる思いをして来ました。其の他胸を打つたり手をくじいた等は度々のことです。又病氣をしましては会社員等は保険制度があるために医療費も僅かです済みますし、たとえ休みましても給料の何割かは貰えます。他方商売、農業等の場合は婦女子が交つて業務に携わる事が出来たので幾らかの収入もあります。而し漁業者の場合にはこれが出来ません。それゆえ少々の病氣位は医者にも行かず、とことん頑張りまします。これでおし通せれば結構なんです。取返しつかぬ様な事態にもなり兼ねないので、このように考えて来ますと、医療共済或は保険制度があればと云う事を痛切に感じます。この事につきましては去る五月の新聞に県民の医療保障の確立を計るため、全市町村に国民健康保険を普及する計画を立てておられるとか、又昨今ラジオ、新聞紙上で厚生省の同様な件が盛んに出ておりますが、何れも実現迄には相当の年月を要するようです。そこで私達漁民は前にも申しました如く、非常な悪条件の下に働いており、堪えず不安な生活をしているのですから、この際職域を通じてこれの実現を図るのが急務ではないでしょうか……自分の家は皆健康だからとか、大きな災難は

減多にないとか、掛金があほらしい等と云うのもききませんが、これは大きな間違いです。諺に「今日は人の事明日は我身」とありますが、誠に名言です。まして漁業者は薄板一枚下は地獄と云われております立場にあるのですから、この言葉を充分に味わう必要があると思ひます。例えばどんなに良い案でも協力なくしては実現は困難です。皆さんの深い御理解と御判断の下に実現を計ろうではありませんか！

衛生面に関しても、漁家では魚を扱う関係上特に伝染病の媒介役である蠅が多く、又他所より汚物を捨てに来ますので下水溝が汚れており、これ等はすべて伝染病発生の温床となつて居る事に気が付かず、自然のなりゆきに任せて放置され勝ちの現状であります。色々な予防注射にしましても、わざわざ当局から出張して貰つて実施致しました場合でも、大

漁村の副業と内職

一 仮屋漁協組婦人部

私達の住んで居ります淡路の漁村は、こども毎年漁獲が減少し私達漁民の生活は日々苦しくなつて参りました。そのため子供は漁業に見切をつけ、年頃の娘達は漁師の家へ嫁に行きたがらず、漁家を交じえた町村の小中学校の不学児童の大部分は漁師の家の子弟達でしめられて居る状態であります。此の現実を御列席の皆々様に十分御認識の上適切な施

半は嫌つて来なかつたり、時間の都合がつかぬ為実施せぬ様になつております。これ等もやはり病氣に對します予防と云う考え方が浅いためだと思ひます。幸いに婦人部の組織も出来ましたし、何とか協力してもつともつと環境衛生について研究を重ね、当局と連絡を密にして下水溝の清浄、消毒、浜辺の清浄化、殊に汚物投棄の防止等、加えて衛生経済の合理化した台所の改善も合せて計ろうではありませんか！

病魔に對しては医療保護、災害に際しては貯蓄の備あつてこそ漁村向上への途と思ふのであります。関係当局の方々に於かれましても、何卒この零細な漁村婦人が痛切に訴えるかかる案件を御賢察下さいまして、一日も早く実現への運びに御尽力下さいませ様に切望致しますと共に、この大会を通じて皆様方の御協力を重ねて御願ひ致します。

策の御推進を前もつてお願い致します。さて此の苦しい私達漁民の生活を少しでも楽にしようとして淡路各地の漁村では漁協組婦人部を結成して、少しでも良い品を安く買入れるために日用品の共同購入を行い、又僅かずつではありますが一、二円貯金を実施する等他の地区の婦人部と同様に努力を続けております。本年淡路水交會連合會や各単位漁協組合の御理

解のもとに淡路漁協婦人部連合會が結成され、會合の席でお互の苦勞を話し今後漁協組婦人部の歩み方について語り、お互に手を取り相励げまし合つて私達漁家の生活をよくするために漁協組婦人部の一段の発展に努力する事を誓ひ合つて居ります。私達の現在行つて居ります事業は主として消費生活的な面でありましてこれのみでは決して私達の生活は楽になりません。私達の生活は漁業のみに頼つて行く現在までの行き方では到底良くはなりません、どうすればよいのでしようか？ 内海漁業の不振の解決は私達漁民の手でとても出来るように思われませぬ。勿論私達婦人部の力によつてやれる様な事でないと思ひ居ります。只強力な漁業政策、漁民対策の実行による事のみが解決の道だと思ひます。世間の人

が寝ている真夜中に働き、星を載いで出漁し夕べ遅く帰る主人を送り迎へる私達漁村の主婦は、主人達が無理とは知りながら稚魚を獲り制限区域を越えて漁民同士が相争う現実を見、又四日クラブの青少年が折角研究した新漁法を履行しようとするれば他漁業に影響があるからと禁止されるような状態を見ると、一体私達漁民はどうすれば良いのでしようか？ 私達漁民が強く正しく生きて行くべき道をつけて下さいませよう政府及び県当局に強く要望する次第であります。然しながら私達は只為政者にのみ頼るものはありません、私達に残された解決策の一つは漁村婦人の内職によつて家計を補助すること、閑漁期における漁民に對する

適當な副業を行う事でありませぬ。沖で働

く漁師には閑漁期の副業、家庭を守る漁村の主婦には内職とこれが淡路漁協組婦人部の切実なスローガンであります。現在一部の地方にマツチ工場、紡績工場、貝ボタン工場、ジュエタン工場等がありこれに通う婦女子によつて生活を補つて居る所もありませんが、之等に從事出来るのは限られた土地の限られた人々のみであり皆行くわけには参りません。内職としましてはマツチ張り、玉葱や蜜柑の箱、魚のトロ箱の釘打ち等も有りますがやはり限られた土地であり又賃金も安く到底暮しのたしにはなりません。最近輸出用へアネット編をやつて居りますが、これも仲介業者や斡旋業者の都合で賃金に相當の開きが有り良い内職とは申兼ねます。やがて木枯が吹き出すと漁村は冬枯時となり漁村は火の消えた様になりませぬ。昔は淡路の西浦方面から冬枯に酒屋の方へ多数の出稼が有りましたが、この頃では一人も行けなくなりこれに変わる適當な仕事も見つかつて居りませぬ。東浦、南浦も皆同様な悩みをもつて暮しているのではありません。冬枯に何か良い仕事がないかと云う声はどの浦にも出ているのであります。少しでも漁業以外の収入があれば私達の生活は夫だけ楽になり、ひいては無理をしままで小さい魚を獲つたり、血で血を洗う様な漁場紛争をする様な事が無くなつて参ります。私達漁村生活に明るい希望を持てますようどうか果及び関係団体の皆様私達に適當な副業と内職を与えて下さる様御尽力下さいませよう御願ひ致します。

はたらく人へのあいさつ

明石市林崎・望海診療所長

松 井 毅

夜半の雨に少しつとりぬれた道路——まだ寝静まつている漁師町——わたしは急患の往診を終えて、かろく自転車のペダルをふみながら帰つて来た。春の夜明けであつた。空気が絹のように柔かい。わたしは一年中でいちばんこの季節の空気の肌ざわりが好きだ。胸のなかまでなごんでくる。四面を海にかこまれた日本の国に恵まれた喜びである。

——ホンにまあまあお元気で……きょうも早ようから御苦労さんだんなア——突然背なかに声を受けてふりかえると、今しがた表戸を開けた白髪のお婆さんが、サイラ開きにでも出かけるらしい身仕度のおかみさんに声をかけたのだつた。私へのあいさつではなかつたけれど、まるで自分へのあいさつであるかのようにうれしく聞いた。これこそ働く人人にふさわしいあいさつだと思つた。

働く者には、それぞれにその日の日の苦労がある。それでも朝ともなれば、昨日の苦労をさつぱりとぬぐいすて、いそいそと働きに出かける。戦後十年がすぎたが、戦災で焼かれたこの町は、まだたくさんの家がバラツク立ちのまま、雑然と建てこんでいる。経済界の好況が伝えられても、この町の生命である内海漁業の行詰りがなげかれ、その日のシケぐあいにも、ため息がもれる。労働の時間は、潮どきに左右されて不規則になる。ま夜中に起出して沖へゆき、疲れはてて家へ帰るのが昼だが、すぐに寝てしまう。とてもまじめな本をよんだり、友人と真剣に語りあう時間がない。私のところへおりおり、性病をかついで相談にくる青年がある。彼のおかれてる環境を思うならば、彼を責めるわけにはいかないであろう。それにしても、この町の青年の将来を思うとき、私の心は沈むのであつた。

とこの町の青年の活動を知ることができた。青年会の機関誌「海星」を見せてもらつたからだ。そこには青年たちのまじめな努力を見た。遠洋漁業の技術を習得するために毎年何人かの青年が出かけてゆく。またわびしい生活に健康な慰安を入れてみんな元気づけようとしてる青年がいることを知つた。私の所へ性病をかついでくる以外の青年の姿を知らされたのだつた。しかし前者も後者も同じ青年の姿なのだ。どちらも暗いきびしい生活の現実がまつわつており、泥沼からぬけ出ようとす希望にもえてることに変わりはあるまい。

性病をなおすことは大切である。と同時にこんなワナにおちいらぬですむ光明を青年に投じなければならぬ。暗い環境に育つた者がみなドラクするとは限つたものでない。はやく目ざめた青年、「こうではないけない、何とかしよう」と考える青年が、仲間の青年たち、まだ希望もなく、日目のくらしのなかに混沌としてる同輩のために奮闘してもらいたい。自分ひとりのいわゆる「立身出世」型の青年には期待しない。このみんなのために活動する青年の姿をこの町の青年会の活動のなかに見た。非常にたのしく、かつうれしく感じた。

いまわれわれは原子力の時代に入ろうとしている。技術というものは、人間が労働のなかからうみだしたものであるが、過去の技術はまだ地球のひろさをこえなかつた。原子力時代にはもはや地球はせまい。戦争の技術が発達して原水爆ができる、ウツカリと戦争ができない。人間が産みだした技術の成果が人間の考え方そのものを変えてしまう。技

術の進歩とともに、生産が増し、生産規模が大きくなるにつれて人間の共同生活の規模が大きくなつてゆく。歴史的にみても、村から町へ、町から藩へ、藩から国へ、国から連邦や国際間の共同体へ——と規模が大きくなつていく。原子力時代となると、人人はウツカリ戦争ができないばかりでない。戦争という手段をすてて話合いでゆこうと、考え方が変つてくる。せまい地球上の人間同志は、なかよくいろいろの約束を結び、共同して生存をはかることが得策であることを理解するようになる。

将来の世界の大体のみとおしはこのようなだと思う。なかには「それは遠い将来のことだ」と考える人があちこちでこういう方向へ物事がすすんでいっているのではないだろうか。注意してみなければわからないような気づかれぬ形で行われているのではないだろうか。

このような動きが、ひとりでのうなつているのでない。かげに、その方向へと努力する人人がある。またその反対の方向へひつぱろうとする人間もいる。しかし反対へ動かさうとしても、人間の大部分の意志が当然むく方向をかえることはできない。したがつてそういう多くの人人の意志がひとつに固まると大きな力になる。原子力の時代は、平和共存の時代である。

そのときにこそ世界中のはたらく人人が心から楽しくお互の朝のあいさつをかかわすことであらう。

☆明石市漁業連合青年会発行「海星」九号より要約転載

みんなの信漁連 みんなで利用

兵庫県信用漁業協同組合連合会

会 長 島 田 文 治 郎

本 部 兵庫県立水産会館内 直通電話㊦0193
但馬支所 香住町字中浜頭 香住125

日用品のお取次も

兵庫県内海漁業協同組合連合会

会 長 三 浦 清 太 郎

本 部 兵庫県立水産会館内 直通電話㊦3424—5
明石油槽所 明石市船町 明石3207
富島油槽所 北淡町富島 富島 66
仮屋出張所 淡路町仮屋 仮屋 59

購買品は系統利用て

但馬漁業協同組合連合会

会 長 守 山 源 太 郎

城崎郡香住町香住 電話香住154

神戸市兵庫区
新在家町

兵庫県立水産会館

電㊦8301(事務)
電㊦9563(宿泊)